



仲間と自分アピール発表会 その4

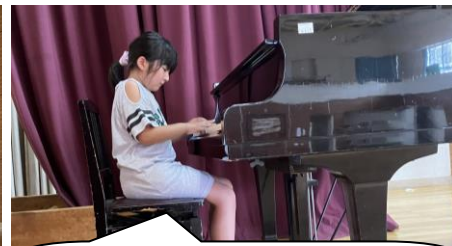
9日(月)に4回目の発表会を行いました。今回は、お手本の絵を提示し、素早く絵を描くという挑戦やルービックキューブ揃えのタイムアタック、ピアノ演奏でした。ルービックキューブは何と1分以内に見事クリアすることができ、会場から大きな拍手がおくられました。



手本の絵を1分以内に素早く描くことができました!



1分以内に見事6面すべて揃えることができました!



「カッコー」など2曲を上手に演奏してくれました♪

防犯教室から ~いざというときに大声を出す意味~

10日、会津坂下警察署の方を講師にお招きし、防犯教室を行いました。ねらいは次の通りです。

- 不審者が校内に侵入した時に、迅速で安全な行動ができるように訓練を行う。
- 日常生活において起こり得る危険について考えさせるとともに、危険回避能力を身に付けさせる。

校長講話で、子どもたちに次のことを話しました。

不審者に遭遇し、危険な目に遭ったときに、なぜ大声を出す必要があるのでしょうか?

「周りの人に気づいてもらうため」もありますが、ひと気のない場所でこそ、そうした危険は起こる場合が多いです。悪いことをしようとしている人は、悪いと分かっているので緊張状態にあります。人は緊張しているときに、大きな声や音、または光を出されると一瞬固まってしまいます。ひるむということですが、その「相手がひるんだ隙に逃げる」という意味があります。

防犯グッズやセキュリティ用品を考えると、その多くが音や光を出すものであることから理解できますね。つまり、悪い行為をしようとしている人に対して警告を発する音や光であり、それ以上の行為を思いとどまらせるのが目的です。だから、「何かあったら大きな声を出す」のです。

問題は、そうは言っても「簡単に大声など出せない」という点です。普段、大きな声を出すことはなかなかないでしょうし、突然、経験したことのないような危険に遭遇した瞬間には、息をのんで固まってしまふのはやむを得ないことです。では、どうすればよいか。「大声を出して相手をひるませて自分を日頃からイメージしておく」ことが大事です。そのために、元気な声であいさつしたり、授業で積極的に発言したりするなど、普段からしっかり声を出すことを意識して生活していきましょう。

それでも、いざという時に大声は出せないこともあるでしょう。その代わりに大きな音を出して不審者を威嚇してくれるのが「防犯ブザー」です。いざというときに使用できるよう点検しておきましょう。

100チャレ ~継続は力!~

5年生の男子(右写真)が、100km走る目標を2ヶ月で達成し、校長室を訪れて報告してくれました。練習を積み重ね、県中長距離記録会や全国小学生陸上交流大会(日清カップ)などで好成績を収めるなど、力をつけており、今後の活躍が楽しみです。

「継続は力」。次は200km目指してがんばってほしいと思います。



暗唱チャレンジ（5月下旬）

